

学校の教育目標	自ら考え行動する、人間性豊かな生徒の育成		
学年の重点項目	1の柱	1-(2) 最後までやり抜く心、1-(3) 自分の言動に対する責任感	
	2の柱	2-(2) 他の人への思いやり	
	3の柱	3-(1) 生命を大切に作る心、3-(3) 自分の弱さを見つめ乗り越えようとする心	
	4の柱	4-(2) 公衆道徳を大切に作る心、4-(3) 差別やいじめをしない心、4-(6) 家族を愛する心	

月	授業日	主題名	内容項目	資料名	ねらい	中心発問(例)	私たちの道徳	心みつめて
4	1	よりよい自己の追求	—	美しく自分を染めあげて下さい	理想を求め、積極的に力強く人間らしい誠実な生き方を求めようとする道徳的心情を育む。	あたらしい色に、美しく染めあげるために、生きていくうえで大切にしたいと思っている心は何ですか。	P2-3	
	2	優しい心	2-(2)	おばあちゃんの指定席	人は互いに支え合って生きていることに気づき、思いやりの心をもって人と接しようとする道徳的心情を育む。	おばあさんとの約束があるのに、ゆう子が男の人に席をゆずろうと思ったのはなぜだろう。	P54-59	P20 P132,133
	3	いまを生きる大切さ	3-(1)	自分の番    いのちのバトン	脈々とつながる命の尊さに思いを馳せ、自他の命をかけがえのないものとしてとらえる道徳的心情を豊かにする。	「自分の番を生きている」ということを、あなたはどのように感じ考えますか。	P98-101 P102-107	P22-24,31 P142,143
5	4	家族のきずな	4-(6)	三六五×十四回分のありがとう	家族の深い愛情に守られて今日があることに気づき、感謝の心で家族の愛に応えようとする道徳的心情を育む。	「私はこんなに幸せになれました」という言葉にはどんな思いが込められていたのだろうか。	P180-185	P158,159
	5	日々の心構え	1-(1)	出船の位置に	望ましい生活習慣を身に付けておくことの大切さを自覚し、自らを律し、生活を正そうとする道徳的实践意欲を培う。	筆者の「出船の位置に」という言葉にどのような日常の心構えが込められているだろうか。	P10-15	P120,121
	6	自分をきたえる	1-(5)	ぼくの性格をつくった友人	自己受容、自己理解を深めつつ自尊感情を高め、自身のよさをいっそう伸ばしていこうとする道徳的態度を育成する。	筆者がより広い世界に旅立つ決意ができたのはどうしてだろう。	P38-43	P3 P128,129
6	7	善意や支えへの感謝	2-(6)	人のフリミテ	感謝の心は他者の厚情にふれたときの自然な感情であることに気づき、その気持ちを素直に表そうとする道徳的態度を育成する。	「ありがとう」という言葉には、どんな力があるとあなたは思いますか。	P82-87	P140,141
	8	自主的な判断	1-(3)	アキラの選択	他者に迎合せず自主的に考え、判断することを重んじ、その結果に責任をもつための道徳的判断力を高める。	アキラが、何事も自分で判断して実行するリョウタにもやもやした気持ちになったのはどうしてだろう。	P22-27	P5,6,8-10 P124,125
	9	目標に向かう意志	1-(2)	目標は小刻みに	大きな目標も一步一步着実に積み上げる努力で達成できるのだということを実覚し、達成への道徳的实践意欲を培う。	くじけそうなとき、「私」を支えたものは何だったのだろう。	P16-21	P2,4,7,12,13 P122,123
	10	正しい異性理解	2-(4)	アイツ	異性を興味本位の関心や単なるあこがれとしてではなく、人間として相手の人格を尊ぼうとする道徳的心情を育てる。	これからの二人のつき合いには、どんなことが大切だろう。	P66-71	P136,137
7	11	弱さの克服	3-(3)	いつわりのバイオリン	だれもがもっている人間らしいよさを認め、弱さに負けず、自分に恥じない生き方を見いだそうとする道徳的心情を育む。	ロビンから届いた手紙を読み終えたフランクはどうして涙がこぼれたのだろう。	P120-125	P26,27,34,35 P146,147
	12	よりよい集団づくり	4-(4)	小さな一歩	集団の一員としての役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努める道徳的態度を育成する。	みんなで委員会活動を進めるために、理恵はどんなことが大切だと気づいたのだろう。	P166-171	P80-87 P154,155
9	13	公德を尊ぶ心	4-(2)	島   耕作   ある朝の出来事	社会の一員として公共の場における態度を考え、気持ちよい社会を実現しようとする道徳的实践意欲を培う。	「あなたの気持ちのことを言っている」という島の言いたかったことは何だろう。	P148-153	P150,151
	14	好ましい世の中	4-(2)	バスと赤ちゃん	皆が互いへの配慮と思いやりをもつ気持ちのよい社会をつくらうとする道徳的实践意欲を培う。	乗客の拍手にはどんな思いがこもっていたのだろう。	P142-153	P150,151
	15	礼の精神	2-(1)	半分おとな   半分こども	礼は、心と形がともなっていなければならないことを知り、適切な言動を心がけようとする道徳的实践意欲を培う。	「礼儀」とはどういうものなんだろう。	P48-53	P14,16 P130,131
	16	いじめを許さぬ強さ	4-(3)	私もいじめた一人なのに…	見て見ぬふりをする消極的姿勢を憎み、いじめや不正を断固として許さぬ心を行動で表す道徳的实践意欲を培う。	私」がおもわず殴ってしまったのはなぜだろう。	P160-165	P152,153

10	17	自然を愛する心	3-(2)	「あつ、トトロの森だ！」	人間が自然の中で生かされていることに気づき、自然を尊び、愛護に努めようとする道徳的態度を育成する。	筆者が出会った老人と少年は、どのように自然とかわっていたのだろう。	P114-119	P25,28,29 P144,145
	18	真の友情	2-(3)	雨の日の届け物	真の友情の尊さについて理解を深め、尊敬と信頼に支えられた友情を育てようとする道徳的実践意欲を培う。	すずらんを届けてくれたひとみに対して、「私」が「本当に恥ずかしかった」のはなぜだろう。	P60-65	P19,21 P134,135
	19	心のあたたかさ	2-(2)	夜のくだもの屋	人間はかわり合いの中で生きていることを感じ、感謝と思いやりの心で人と接しようとする道徳的心情を育む。	少女が「店のあかりがあんなににあたかく見えたのは当然だった」と思ったのはなぜだろう。	P54-59	P20 P132,133
	20	きまりの意義	4-(1)	人に迷惑をかけなければいいのか？	きまりの意義を理解し守ることで、自他の権利を重んじ、よりよい社会をつくろうとする道徳的態度を育成する。	無言のまま先生の手が肩に置かれたとき、「僕」はどんな気持ちがしただろうか。	P134-139	P148,149
11	21	国を思う心	4-(9)	負けへんで —川本幸民—	日本人としての自覚をもち、国の発展に寄与しようという道徳的心情を育てる。	愉快にビールのお話をしている江戸の人々をやさしい目で見つめながら、幸民は心の中で何を思っていただろう。	P206-211	P37 P56-63 P164,165
	22	他に学ぶ姿勢	2-(5)	殿さまのちゃわん	人それぞれに異なる立場やものの見方、考え方があることを尊重し、他に学ぶ謙虚な道徳的態度を育成する。	百姓のもてなしに触れ、厚手のちゃわんでの食事をしたとき、殿さまはどう思っただろう。	P72-77	P15 P138,139
	23	良心のめざめ	3-(3)	銀色のシャープペンシル	内なる良心の声を自覚し、自分を奮い立たせることで、目指す生き方に近づこうとする道徳的心情を育てる。	何が「ぼく」を卓也の家へ向かわせたのだろうか。	P120-125	P26,27,34,35 P146,147
	24	郷土を愛する心	4-(8)	娘のふるさと	地域社会の一員としての自覚をもち、郷土を愛し、その発展に努めようとする道徳的実践意欲を培う。	健司が、娘の友達の父親の呼びかけに、笑顔で応えたのはどうしてだろう。	P200-205	P38 P162,163
12	25	誠実な行動と責任	1-(3)	裏庭のできごと	自分の行為が及ぼす結果を深く考え、誠実に責任をもつことのできる行動がとれるよう道徳的判断力を高める。	職員室に向かう健二は、どんなことを考えていたのだろう。	P22-27	P5,6,8-10 P124,125
	26	勤労の尊さ	4-(5)	午前一時四十分	勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して生きがいのある人生を実現しようとする道徳的実践意欲を培う。	老母のどんな思いが、毎日、午前一時四十分、玄関の戸を開けさせるのだろう。	P172-177	P64-71 P156,157
	27	かけがえのない家族	4-(6)	語りかける目	家族を失う苦しみや悲しみにふれ、そのかけがえのなさを感じ、家族を大切に思う道徳的心情を育てる。	少女は、どんな思いで、母の骨を拾ったのだろうか。	P180-185	P158,159
1	28	人生を切り拓く	1-(4)	米屋の奥さんの足音	理想の自己を求め、うそ偽りのない誠実な生き方で人生を切り拓いていこうとする道徳的心情を育む。	筆者が、二年半の療養所生活を「人生の学校」と呼べるのはどうしてだろう。	P32-37	P11 P48-55,88-95,104-110 P126,127
	29	生命の尊さ	3-(1)	あなたはすごい力で生まれてきた	生命のもつ偉大な力を敬い、いとおしみ、かけがえのない自他の生命を尊重する道徳的態度を育成する。	あなたをこの世界に誕生させた「すごい力」とはいったい何だろう。	P98-101 P102-107	P22-24,31 P142,143
	30	真の国際貢献	4-(10)	リヤカーは海を越えて	真の国際貢献について理解を深め、国際的な視野に立って人類の幸福に貢献しようとする道徳的態度を育成する。	タンザニアにリヤカー工場を作ろうという村松さんの情熱を支えているものは何だろう。	P214-219	P72-79,96-103 P166,167
2	31	支え合う家族	4-(6)	ふたりの子供たちへ	家族への敬愛の念を深め、家族の一員として積極的に家族を支え協力していこうとする道徳的実践意欲を培う。	どのような思いが筆者に「お母さんに再婚させてあげなさい」とつづらせたのだろう。	P180-185	P158,159
	32	公正、公平な社会	4-(3)	ある日のバターボックス	差別や偏見をなくすよう努力し、だれに対しても公正、公平な社会の実現に努める道徳的態度を育成する。	学校では生気のないO君が生き生きとしているのを見て、筆者はどんなことに気づいたのだろう。	P160-165	P152,153
	33	思いやり	2-(2)	旗	相手の立場や気持ちを考え、あたたかい思いやりの心で接する道徳的態度を育成する。	どんな力が、少女に見えるはずのないバラを見せたのだろう。	P54-59	P20 P132,133
3	34	愛校心	4-(7)	二枚の写真	学校に愛着や誇りをもち、その一員としてよりよい学校づくりに意欲的に取り組もうとする道徳的実践意欲を培う。	病室の浩は、屋上にいる同級生たちを見て、どんなことを思ったのだろう。	P194-199	P160,161
	35	くじけない心	1-(2)	木箱の中の鉛筆たち	障害や困難にくじけることなく、希望と勇気をもって目標を達成しようとする道徳的実践意欲を培う。	父親の何百本というちびた鉛筆を見せられたとき、「私」はどんなことを考えたのだろう。	P16-21	P2,4,7,12,13 P122,123

## 第2学年 道徳の時間 年間指導計画

学校の教育目標		自ら考え行動する、人間性豊かな生徒の育成	
学年の重点項目	1の柱	1-(3) 自分の言動に対する責任感	
	2の柱	2-(2) 他の人への思いやり	
	3の柱	3-(2) 自然や美を愛する心、3-(3) 誇りをもって生きていく喜び	
	4の柱	4-(3) 差別やいじめをしない心、4-(5) 勤労の尊さを理解する心、4-(6) 家族を愛する心	

月	授業日	主題名	内容項目	資料名	ねらい	中心発問(例)	私たちの道徳	心みつめて
4	1	よりよい自己の追求	—	不思議	偶然がもたらす出会いの神秘に思いを馳せ、よりよい生き方を目指そうとする道徳的実践意欲を培う。	「トクベツ」に見えるあなたの不思議は何ですか。	P6	
	2	育み合う友情	2-(3)	律子と敏子	心を許し合える友をもつことのすばらしさを感じ、互いに励まし高め合う関係を築こうとする道徳的態度を育成する。	律子を見送った敏子の胸に押し寄せてきたものは何だったのか。	P60-65	P19,21 P134,135
	3	自分を好きになる	1-(5)	虎	自分を見つめ、自分のよさを生かしさらに伸ばしていくために前向きに取り組もうとする道徳的実践意欲を培う。	振られた脇役に不満をもっていた八輔が、虎になりきろうと決意したのはどんな考えからか。	P38-43	P3 P128,129
5	4	望ましい生活習慣	1-(1)	小さなこと	生活の中でよい習慣を身に付ける大切さを知り、小さなことからでも実行に移そうとする道徳的実践意欲を培う。	ごく小さい自分のしつけが、ほかのことでも自分を支配しているとはどういうことだろう。	P10-15	P120,121
	5	自然への畏敬	3-(2)	樹齢七千年の杉	自然に感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏怖の念を深め、自然を愛する道徳的心情を育てる。	筆者が縄文杉に大きく心を動かされたのはなぜだろう。	P114-119	P25,28,29 P144,145
	6	社会秩序を高める	4-(1)	仏の銀蔵	遵法の精神の大切さに気づくとともに権利と義務のあることを知り社会秩序を高める生き方をしようという道徳的心情を養う。	銀蔵は何を思っ「そうか、お天道様か。」と膝を打ったのだろう。	P134-139	P148,149
6	7	目標に向かう意志	1-(2)	人間であることの美しさ	自らの可能性を信じ、目標や理想に向かってあきらめずに最後までやり遂げようとする道徳的実践意欲を培う。	筆者の言う「人間だけが表現しうる美しさ」とは何だろう。	P18-21	P2,4,7,12,13 P122,123
	8	ともに生きる社会	4-(2)	迷惑とは何ぞ	社会連帯の自覚を深め、互いにいたわり助け合う、よりよい社会をつくろうとする道徳的実践意欲を培う。	外に出ようとしなかった少女が、一人で道行く人に助けを求めることができたのはなぜだろう。	P148-153	P150,151
	9	他に学ぶ姿勢	2-(5)	「一番乗り」たけいち	他の人がもつ自分にはないよさを認め、広い心で謙虚に学ぼうとする道徳的心情を育てる。	たけいちが、筆者の中で「ヒーロー」になったのはどうしてだろう。	P72-77	P15 P138,139
	10	家族の深い愛	4-(6)	美しい母の顔	家族の深い愛情によって育てられたことに感謝し、より充実した家庭生活を築こうとする道徳的態度を育成する。	父の話を聞いた私が、あとからあとから流れてくる涙を止められなかったのはなぜだろう。	P180-185	P158,159
7	11	誠実な心	3-(3)	タッチアウト	人間の心には弱さ醜さと、誠実さが同居することに気づき、誠実さを励まし気高く生きようとする道徳的心情を育てる。	、新幹線に乗り込み、うつむいた「ぼく」に声をかけるとしたら、あなたは何か言いますか。	P120-125	P26,27,34,35 P146,147
	12	責任ある判断	1-(3)	リクエスト	物事の善悪を自主的によく考えうえで判断して誠実に行動し、その結果にも責任をもつ道徳的態度を育成する。	放送局で伊藤君たちのリクエストを読む岩田さんの声が聞こえたとき、思わず耳をふさいでしまったのはなぜだろう。	P22-27	P5,6,8-10 P124,125
9	13	夢をもち続ける生き方	1-(4)	ロスタイムのつづき	挫折に絶望することなく、理想を求め、人生を意欲的に豊かに生きようとする道徳的実践意欲を培う。	筆者は、カズの生き方から何を感じ取ったのだろう。	P32-37	P11 P48-55,88-95,104-110 P126,127
	14	よりよい社会の実現	4-(2)	地下鉄で	よりよい社会の実現は一人ひとりの行動によって成り立つことを知り、積極的にかかわろうとする道徳的実践意欲を培う。	筆者が感じた「少女たちのなかにある美しさ」とは何だろう。	P148-153	P150,151
	15	感謝の心にこたえる	2-(6)	ありがトオヨ	助け合いや協力の根底にある感謝の心の大切さに気づき、それにこたえようとする道徳的心情を育む。	診察室で「遺言」をみた高橋さんは、どんな思いでボロボロ涙を落としたのだろう。	P82-87	P140,141

	16	強い正義感	4-(3)	路上に散った正義感	勇気ある行動に共感し、不正を憎み、断固許さない社会を実現しようとする道徳的態度を育成する。	不正を許さない、よりよい社会をつくるために、私たちはどうすればよいのだろうか。	P160-165	P152,153
10	17	人間のすばらしさ	3-(3)	ネパールのビール	人間のもつ強さや気高さを信じ、人間として誇りある生き方を見出そうとする道徳的心情を育てる。	「ちかごろあんなに泣いたことはない」という筆者は、なぜそれほどまでに泣いたのだろうか。	P120-125	P26,27,34,35 P146,147
	18	働くということの意味	4-(5)	アキラのくじ運	勤労の意義を理解し、働くことを通して社会に貢献することを自覚し、自ら実践しようとする道徳的態度を育成する。	朋美先生に褒められ、アヤコに顔をのぞき込まれたとき、アキラはなぜ「なんともいえない気持ち」になったのだろうか。	P172-177	P64-71 P156,157
	19	自然への感動	3-(2)	輝かしい最後	自然の営みに生命を感じ取り、感動や畏怖の念を深め、自然を愛し護ろうとする道徳的心情を育てる。	枯れ草の下に新しい命を見つけたとき、筆者が枯れ草を「輝かしい」と感じたのはどうしてだろう。	P114-119	P25,28,29 P144,145
	20	あたたかい人間愛	2-(2)	軽いやさしさ	人間はかかわり合いの中で生きていることを自覚し、思いやりの心をもって行動できる道徳的態度を育成する。	若者はなぜ、老婦人の言葉を遮って「暇つぶしですよ」と言ったのだろうか。	P54-59	P20 P132,133
	21	自己を生かし輝く集団	4-(4)	明かりの下燭台	集団の中で自分の個性を生かし、一員としての役割と責任を果たそうとする道徳的実践意欲を培う。	鈴木さんはどうして涙を笑顔にかえることができたのだろうか。	P166-171	P80-87 P154,155
11	22	かけがえのない命	3-(1)	命の重さ	生命の尊さ、生きていることのありがたさに気づき、自他の生命を尊重する道徳的態度を育成する。	あなたの考える「命の重さ」とは何だろう。	P98-101 P102-107	P22-24,31 P142,143
	23	国際協力を考える	4-(10)	国境線が鍛える共生の思考	地球人の一人としての自覚を深め、世界の平和と人類の幸福を希求する道徳的心情を育む。	国際貢献の在り方を考えるとき、私たちが大切にしなければならないのはどんなことだろう。	P214-219	P72-79,96-103 P166,167
	24	責任ある判断	1-(3)	お前のカワウンが淋しがっているぞ	自分にも社会にも常に誠実でなければならないことを自覚し、責任をもった行動をとる道徳的態度を育成する。	父の言葉が稲妻のように筆者の心を貫いたのはなぜだろう。	P22-27	P5,6,8-10 P124,125
12	25	社会への奉仕	4-(5)	加山さんの願い	勤労は個人のためだけでなく社会を支えていることを理解し、公共の福祉と社会の発展に尽くす実践意欲を培う。	雨の中で傘をもったまま加山さんが考え続けたことは何だろう。	P172-177 P178-179	P64-71 P156,157
	26	時と場に応じた礼儀	2-(1)	試行錯誤はまだまだ続く	礼儀の精神への理解を深め、時と場に応じた適切な言動を選択できる道徳的判断力を高める。	コミュニケーションにおける礼儀とは、いったい何だろう。	P48-53 P226-229	P14,16 P130,131
	27	思いやる心	2-(2)	最後の年越しそば	人間尊重の精神を基盤に、他を思いやる心もち、人間的交わりを深めようとする道徳的心情を育てる。	自分の帰宅を止めて、お年寄りに年越しそばを作る父親を見たとき、筆者はどんな気持ちになったのだろうか。	P54-59	P20 P132,133
1	28	家族への敬愛	4-(6)	一冊のノート	家族の大切さを知り、敬愛の念を深め、家族の一員として積極的に協力していく道徳的態度を育成する。	だまって祖母と並んで草をとる「ぼく」は、心の中でどんなことを考えていたのだろうか。	P180-185	P158,159
	29	国を愛する心	4-(9)	国	排他的な自国賛美ではなく、国際社会の一員としての自覚と責任をもって国を愛する道徳的心情を育てる。	王さんの考える「国に対する礼儀」とはどのようなものだろう。	P206-211 P212-213	P37 P56-63 P164,165
	30	正義を重んじる心	4-(3)	ひとりぼっち	物事を公正、公平に見る目をもち、無関心にならず、不正な行動やいじめを断固許さない道徳的態度を育成する。	筆者をここまで追い込んだものは何だったのだろうか。	P160-165 P230-237	P152,153
2	31	正しい異性理解	2-(4)	アイツとセントバレンタインデー	異性の特性や違いを正しく受け止め、ひとつの人格としてその尊厳を重んじようとする道徳的態度を育成する。	あなたが二人の友人だったら、どんなアドバイスをするだろうか。	P66-71	P136,137
	32	愛校心	4-(7)	校門を掘る子	学校の主役は自分たちであるという自覚を深め、そのよさを自分たちでつくり出す道徳的実践意欲を培う。	楽な作業ではないのに、どんな思いが女生徒に校門を掘らせたのだろうか。	P194-199	P160,161
	33	良心に恥じない生き方	3-(3)	足袋の季節	ありのままの人間がもつ心の弱さを克服し、自分に恥じない生き方を目指そうとする道徳的態度を育成する。	おばあさんの死を知って、筆者は泣きながら、どんなことを思っただろう。	P120-125	P26,27,34,35 P146,147
3	34	他を思いやる心	2-(2)	「先生にビールやっておくれ」	人の温かさを知り、他の人に対して感謝と思いやりの心をもって接しようとする道徳的態度を育成する。	山根のばあ「黄色いハンカチの心意気」とは何だろう。	P54-59	P20 P132,133
	35	郷土の一員としての自覚	4-(8)	三蔵さんの田んぼ	郷土と自己とのかかわりに気づき、その一員として地域の発展に貢献しようとする道徳的実践意欲を培う。	空に舞う鳶を見たとき、三蔵さんの目から涙となってあふれ出たのはどんな思いだろう。	P200-205	P38 P162,163

第3学年 道徳の時間 年間指導計画

学校の教育目標		自ら考え行動する、人間性豊かな生徒の育成	
学年の重点項目	1の柱	1-(4) 真理・真実・理想を求める心、1-(5) 自分のよさをみにつめ個性を伸ばす心	
	2の柱	2-(2) 他の人への思いやり、2-(3) 理解し合い高め合える友との出会い 2-(6) 感謝の心	
	3の柱	3-(2) 自然や美を愛する心、3-(3) 誇りをもって生きていく喜び	
	4の柱	4-(1) 法やきまりを守る心、4-(3) 差別やいじめをしない心、4-(6) 家族を愛する心	

月	授業日	主題名	内容項目	資料名	ねらい	中心発問(例)	私たちの道徳	心みつめて
4	1	よりよい自己の追求	—	道はいつも ひらかれている	人間としてよりよく生きるため、理想の自己を目指し、前向きに歩み続ける道徳的实践意欲を培う。	どうしてあなたの心に響くのだと思いますか。	P7	
	2	真理を愛する生き方	1-(4)	ジョイス	真理を愛し真実を求める生き方に共感し、自分の人生を歩んでいこうという道徳的心情を育てる。	ガララーガにメンバー表を交換させようとタイガースの監督に思わせたものは何だったのだろう。	P32-37	P11 P48-55,88-95,104-110 P126,127
	3	目標に向かう意志	1-(2)	やさしいうそ	障害や困難に屈せず、希望と勇気をもって最後までねばり強くやり抜く道徳的態度を育成する。	水上さんの言葉によって、筆者はなぜ「これをやれなきゃ私じゃない」という気持ちになったのだろう。	P16-21	P2,4,7,12,13 P122,123
5	4	父母への感謝	4-(6)	スダチの苗木	父母の深い愛情を知り、家族の一員としてよりよい家庭生活を営もうとする道徳的態度を育成する。	両親の苦勞を知ったとき、どんな思いが主人公の心を激しく震えさせたのだろう。	P180-185	P158,159
	5	信頼に支えられた友情	2-(3)	アキラのケータイ	人間関係としての友情を考え、お互いに励まし合うことの大切さに気づき、よい友人関係を築こうとする道徳的实践意欲を育む。	アキラが、「かっ」と体が熱くなるのを感じた」のはどうしてだろう。	P60-65	P19,21 P134,135
	6	美しい生活習慣	1-(1)	りんごの何を食べるのか	節度を守り節制に心掛けた調和のある生活の豊かさを知り、自己の生活を正そうとする道徳的態度を育成する。	真に豊かな生活とはどんなものだろう。	P10-15	P120,121
6	7	感謝の心が支えるもの	2-(6)	土曜日の朝に	互いに贈り合う感謝の心が人との関係に潤いをもたらすことに気づき、日々の生活の中でその心を大切にしていこうとする道徳的態度を育成する。	「有り難い」と感じるができる心の感度が大切だ、という筆者の考えをどう思いますか。	P82-87	P140,141
	8	生命の尊さ	3-(1)	ドナーカード	決して軽々しく扱われるべきではない生命の尊さを深く自覚し、自他の生命を尊重する道徳的態度を育成する。	二人の投稿者の意見を読んで、「命」についてどのように考えたか。	P98-101 P102-107	P22-24,31 P142,143
	9	自然への畏敬	3-(2)	一枚の葉	自然の摂理に生命の尊さを感じ、生きとし生けるすべてのものへの感謝と尊敬の念をもととする道徳的心情を育む。	生まれ、次の命を残して散ることが自然であり、宿命であるという筆者の受け止めを、あなたはどうか感じただろう。	P114-119	P25,28,29 P144,145
	10	夢を追い求める心	1-(5)	「脚本家が出来上がるまで。」	目的や目標をもち、理想を求めて、力強く積極的に自己の人生を切り拓こうとする道徳的实践意欲を培う。	脚本家はどのように出来上がっていったのだろう。テレビドラマのタイトル風に表してみよう。	P32-37	P3 P128,129
7	11	弱さの克服	3-(3)	二人の弟子	自己の弱さ醜さと向き合い、それを克服することで誇りある生き方に近づこうとする道徳的態度を育成する。	白百合の純白の輝きに、智行の涙が止まらなかったのはなぜだろう。	P120-125	P26,27,34,35 P146,147
	12	試練が育てる友情	2-(3)	ライバル	真の友情や友の尊さを理解し、信頼と敬愛の念に支えられた友人関係を築こうとする道徳的態度を育てる。	どんな思いが啓介を見舞いに行かせたのか、またどんな思いが康夫に手紙を書かせたのだろう。	P60-65	P19,21 P134,135
9	13	礼儀の意義	2-(1)	おはようございます	礼儀の意義を理解し、人間尊重の精神をもって時と場にふさわしい言動がとれる道徳的判断力を高める。	「あいさつ」にはどんな意味があるのだろう。	P48-53	P14,16 P130,131
	14	生きる喜び	3-(3)	ひまわり	内なる弱さや醜さと闘い、自己を奮い立たせることで、生きる希望や喜びを見出そうとする道徳的心情を育む。	死のうとまで考えていた筆者を変えたものは何だったのだろう。	P120-125	P26,27,34,35 P146,147
	15	深い人類愛	4-(10)	もつとも悲しむべきことは、病めることでも貧しいことでもなく	どの国の人々も同じ人間として尊重し、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする道徳的態度を育成する。	マザーは、〈死を待つ人の家〉に運ばれてくる人々に対してどんな思いで接していたのだろう。	P214-219	P72-79,96-103 P166,167

	16	いじめを許さぬ心	4-(3)	卒業文集最後の二行	いじめの愚かさを知り、差別、偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない道徳的態度を育成する。	T子さんの卒業文集最後の二行を見て、筆者が果てもなく泣いたのはなぜだろう。	P160-165 P230-237	P152,153
10	17	郷土を愛する心	4-(8)	ようこそ「やねせん」へ	自分の住む地域社会への認識を深め、郷土を愛し、その発展に貢献しようとする道徳的実践意欲を培う。	筆者や野池さん、宮沢芳重さんに共通する思いとは何だろう。	P200-205	P38 P162,163
	18	勤労の尊さ	4-(5)	てんびんばかり	勤労の意義や尊さを理解し、働くことについての正しい考え方を育て、自ら実践しようとする道徳的態度を育成する。	筆者が、「まだまだわたしは幼いな」と思ったのは、何に気づいたからだろう。	P172-177	P64-71 P156,157
	19	自然への畏敬	3-(2)	ほっちゃれ	自然の神秘に感動し、人間の力を超えたものへの畏敬の念を深めようとする道徳的心情を育てる。	男性はどんな思いで「ほっちゃれ」を手にとってやったのだろう。	P114-119	P25,28,29 P144,145
	20	思慮深い判断と責任	1-(3)	ウサギ	自主的に判断、行動するだけでなく、その行為が及ぼす結果についても熟慮し行動できる道徳的態度を育成する。	ウサギを入れたときの主人公に欠けていたものは何だろう。	P22-27	P5,6,8-10 P124,125
	21	思いやりの心	2-(2)	月明かりで見送った夜汽車	思いやりの根底にある人間への深い理解と共感を認識し、人間愛に満ちた道徳的心情を育てる。	みんなは、何に対して「オー」という声をあげ、「拍手」したのだろう。	P54-59	P20 P132,133
11	22	家族への敬愛	4-(6)	天使の舞い降りた朝	親の無私な愛情に感謝し、自己の生き方を顧みながら、家族とよりよい関係を築こうとする道徳的態度を育成する。	「やっちゃんの歌がききたい」といった母の言葉から、「ぼく」はどんなことを汲み取ったのだろう。	P180-185	P158,159
	23	正しい異性理解	2-(4)	アイツの進路選択	異性についての正しい理解を深め、それぞれのよさを認めながら互いに高め合おうとする道徳的態度を育成する。	二人が互いに相手を大切に思っているなら、これから二人はそれぞれどうすべきだろう。	P66-71	P136,137
	24	法の理解と遵守	4-(1)	招集通知ーあなたが裁判員になるときー	法の意義を正しく理解し、自ら権利を行使し義務を果たすことで社会の秩序と規律を高めようとする道徳的態度を育成する。	迷っていた恵美が「決めた」と言えたのは、どんなことに気づいたからだろうか。	P134-139 P146-147	P148,149
12	25	伝統の継承	4-(9)	運命の木ー姫路城の大柱ー	わが国の伝統文化の重みを知り、それを継承していくことの重要性に気づき、よき後継者になろうという道徳的心情を育む。	運命の木に込められたみんなの思いとは、どんなものだったのだろう。	P206-211 P212-213	P37 P56-63 P164,165
	26	つながり合う社会	4-(2)	原稿用紙	人と人とのつながり合いの中で、助け合い、励まし合ってよりよい社会をつくろうとする道徳的実践意欲を培う。	開業の手紙を読んだとき、筆者の心にはどのような思いが浮かんできたのだろう。	P148-153	P150,151
	27	公正、公平な心	4-(3)	自由の意味	真実や正義を見極める心を養い、常に公正、公平な立場で社会の差別や偏見をなくそうとする道徳的態度を育成する。	「異物を混入させない」ためにはどうしたらよいのだろう。	P160-165	P152,153
1	28	謙虚な心	2-(5)	山寺のびわの実	相手の立場や考え方を尊重し、謙虚な広い心で他に学ぼうとする道徳的態度を育成する。	さへと竹庵の話を聞いた甚太は、どんなことを感じたのだろう。	P72-77	P15 P138,139
	29	心のふれ合い	2-(2)	ある元旦のこと	人は互いに助け合って生きていることを自覚し、感謝と思いやりの心で他と接しようとする道徳的実践意欲を培う。	少年が頭を下げるのを見て、筆者はどんなことを感じ、考えたのだろう。	P54-59	P20 P132,133
	30	役割の自覚	4-(4)	監督がくれたメダル	所属する集団の一員であることの自覚を深め、役割を認識し、その責任を果たそうとする道徳的態度を育成する。	筆者が「外野ノックをする手が痛くなり、ていねいに打つようになった」のはなぜだろう。	P166-171	P80-87 P154,155
2	31	誇りある生き方	3-(3)	高砂丸とポトマック川のこと	人間のもつ美しさ気高さを信じ、誇りある崇高な生き方を実現しようとする道徳的心情を育てる。	この二人の行為が、人々の間で語り継がれているのはどうしてだろう。	P120-125	P26,27,34,35 P146,147
	32	志高く生きる	1-(4)	風に立つライオン	絶えず高い理想を求め、志をもって明るく生きること、自己の人生を豊かにしようという道徳的実践意欲を培う。	「風に向かって立つライオンでありたい」とはどういう生き方を言うのだろう。	P32-37	P11 P48-55,88-95,104-110 P126,127
	33	愛校心	4-(7)	心がひとつに	学校に所属する一員としての自覚を深め、皆と協力しよりよい校風を築こうとする道徳的心情を育てる。	みんなが最後の礼のとき「ありがとうございました」と心を込めて言ったのはどんな思いからだろう。	P194-199	P160,161
3	34	きまりを守る	4-(1)	元さんと二通の手紙	きまりを遵守し、確実に義務を果たすことで、よりよい社会をつくろうとする道徳的実践意欲を培う。	元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だったのだろう。	P134-139 P146-147	P148,149
	35	自分を磨く	1-(5)	小さな手鏡	自己理解を深め、自身のよさや個性をのばし、充実した生き方を追求しようとする道徳的態度を育成する。	心に手鏡をもつことで、毎日の生活にどんな変化が表れるのだろうか。	P38-43 P240	P3 P128,129